

令和6年度 学校評価（自己評価） 検証・分析

- おおむね肯定的な評価（平均 3.2 以上）を得ており、昨年度や前期から評価が上がっているものが多い。

(1) 学力の向上

- ▲ 他の項目に比べると、生徒・保護者共に評価が低い。特に、⑥「ICT 機器活用」、⑧「授業におけるまとめ（振り返り）」の評価が2点台で低い。
 - 日常的に授業の内外でタブレット端末を使うようになってきている。（例えば、課題等をタブレット端末で提出したり、調べものでネット検索をしたりするなど。）
 - ⑥⑧については、教科間でその取組に差がある。研究授業等を通して、それぞれの実践を教科間で共有し、授業改善を進めていく。
 - また、家庭学習におけるタブレット端末の利活用についても、書くことを重視するレインボー・ノート（自主学习ノート）との共存を図っていく。

- ▲ ③「思考力・判断力・表現力」は、生徒と保護者の評価に差がある。
 - 質問文が生徒と保護者で少し異なることも理由として考えられるが、学習の成果が実際の生活でいかされてこそその授業である。保護者に成長を実感してもらえよう、学習の場を積極的に公開していく。

(2) 心の教育の充実

- ▲ 生徒の評価に比べると、保護者の評価がやや低い。
 - 本年度、複数担任制を始めたことで、より多くの目で見守ることができ、きめ細かな対応ができるようになった。生徒側からも、相談事があった場合は、より話しやすい担任を選択することができるようになった。また、本年度開設した通級指導教室では、指導者を一人に固定せず、輪番で教員全員が指導に当たるようにしている。保護者に相談事がある場合、どの職員に相談してよいか悩むこともあるかもしれない。改めて、誰にでも相談できる体制であることを周知する。

(4) 家庭との連携

- ▲ ③「情報公開」は、生徒と保護者の評価に差がある。
 - 本年度から、家庭連絡ツール「tetoru」の運用を開始した。学校行事の案内や連絡事項等も配信するようにしている。保護者向けのため、生徒の評価より保護者の評価が高くなっている。

(6) 施設・環境

▲ ①「環境美化」は、保護者の評価が低い。

→ 身の回りの整理整頓を課題に挙げている家庭は多い。校務分掌Cチームでは、整理整頓を重点課題に掲げて取り組み、生徒の姿勢にも変化が見られる。それを保護者も実感できるように、家庭との連携を更に深めていく必要がある。

(8) 一貫教育

▲ ②「夢・憧れ・志」の評価が低い。

→ 小中高一貫教育の下、合同行事やつなぎ授業等を行う中で、高校や高校生への憧れは醸成されているが、それが生徒自身の将来の夢につながっていない。キャリア教育として、1年職業調べや2年職場体験学習、3年「生き方を学ぶ（高校生から進路実現についての話を聞く）」等が設定されているが、それぞれのつながりが薄く、小中高の発達段階に応じた系統的なキャリア教育の実施が求められる。

(9) 職場

○ 昨年度、前期より評価が上がっている。

→ 県から「夏休み充電宣言」が出され、学校でも長期休業中の特定勤務を廃止するなど、年休取得が促進された。本年度から始めたプロジェクトチームによる校内研究は、これまでのやらされ感のある研究から、それぞれの課題に基づく主体性のある研究への変化を促した。また、町から支援いただいて8月に設置された高速インクジェットプリンタは、印刷に係る負担を減らし、働き方改革に大きな効果をもたらしている。

(10) 教育方針

▲ 生徒の評価が低い。

→ 本年度、目標としてよりイメージしやすくなるように目指す生徒像・学校像を一部変更した。学校教育目標及び目指す生徒像・学校像は、各教室前面に掲示されているが、普段から意識できるよう、行事や集会等、折に触れて伝えていく必要がある。学校評価として、一番高い数値を目指すべき項目である。

令和6年度 学校評価（学校関係者評価）

I 自己評価の妥当性について

- ・「(1) ③「思考力・判断力・表現力」について

生徒に比べて保護者の評価が低いのは、家庭で親と子どもがよく会話していないだけかもしれない。

→ 生徒へのアンケートは、授業等の学校生活について回答しており、保護者アンケートは、家庭での様子について回答しているものと思われる。学校での学びが学校の内外を問わず生活の様々な場面でいかされるよう努めていきたい。

- ・職員自己評価の小項目別評価が知りたい。

- ・何よりも日頃子どもたちと関わり、子どもたちの確かな成長を見守っている先生方の自己評価が一番大切だと思う。ところが、自己評価欄には平均値のみ記入され、各項目の評価値が示されていない。これでは、指導者である先生方が、自ら教育活動を総括し、子どもや保護者のアンケートをもとに、一つ一つどのように自己評価をしたのかが私たちには見えてこないと思う。

→ 職員による自己評価では、生徒・保護者アンケートの小項目の数値を参考にして、各自大項目ごとに評価しているため、小項目ごとの評価点数は集計していない。委員の方が評価しやすくするため、次年度の学校評価では小項目ごとの評価も集計したい。

- ・まず、今回の私たち運営協議会委員に課せられた「妥当性を問う」という評価の方法に驚いた。私たちは、子どもを愛し、学校を愛し、地域を愛する単なる一地域住民である。校長先生をはじめ教育の専門家である先生方が、日頃の教育活動を振り返り、子どもや保護者のアンケートをもとに自己評価し、さらに教育活動を前に進めるために検証・分析された方針に対して、白黒つけるような知見も力量も資格も私たちは持ち合わせていない。また、ゼロか100かという評価方法は、教育の世界にそぐわないのではないか。

→ 「地域とともにある学校」として、今後も地域の方々の評価や意見を大切にしていきたいと考えている。次年度は、文章記述のみの回答としたい。

- ・参考資料のアンケート（生徒回答）についての説明がないので少し戸惑った。上段は、学校評価(1)学力向上の部分と同じだと分かるが、下段は、各教科の授業評価の平均値か。下段は、学年ごとの差異はほとんど見られない。各学年各教科とも同じ教科担当の先生が指導されるからだろうか。一方、上段の結果からは、学年による差異が見られる項目がある。主に、家庭学習やテスト勉強など。学級風土の違い

か。全校的に少しでもよくなっていくように、指導をお願いします。

→ 参考資料として提示したが、その説明が不十分だったことは否めない。授業・学習評価アンケートは、学年・教科ごとに生徒から回答してもらっている。教員の指導力を比較評価するためのものではなく、自身の授業等を振り返り、授業改善に役立ててもらうために行っている。よって、個々の教員に担当授業教科の評価値と学年平均値のみを示し、他の教員・教科の評価値を知ることはない。次年度は、この資料を提示すべきか、改めて検討する。

2 その他、学校運営、学校教育活動等に関する質問・意見・要望等

- ・昨年度、前期に比べ、後期の評価が上がっていることは素晴らしいと思う。
- ・引き続き適正な学校運営をお願いします。
- ・子どもの年齢が上がるにつれて、生活態度などについて注意すること、学校での出来事について聞くことが減っているので、会話を増やすことを意識して、子どもの教育を先生任せにし過ぎないようにしたい。そのために、先生方と積極的に会話するようにしたいが、人見知りなので、まずは、酒でも飲みながら話せる機会が増えてほしい。
- ・授業参観や学習発表会で拝見する中学生の姿、地域で見かける中学生の姿、どの子どもどの姿もしっかりと中学生らしく成長し、眩しく、頼もしい限りである。子どもは天まで伸びる＝子どもの可能性を改めて実感している。これもひとえに校長先生をはじめ、全ての先生方のご指導のお陰と感謝する。今後とも、よろしく願います。
- ・勉強がわかりたいというのは、子どもの根源的な願いである。今年度開設された通級指導教室が、子どもの願いに応え、実を結び、それぞれの自己肯定感を少しでも高めていくような機会になることを期待する。
- ・不登校の子どもも同じように、勉強がわかりたいと何とか前に進みたいと願っている。指導は大変難しいと思うが、諦めることなく関わり続けていただきたい。
- ・中学生のカバンの中身が多く重たいようであるが、教科書等の持ち帰りについてどのように指導してるか。

→ 以前に比べると、教科書の厚さや重さは増し、さらにタブレット端末もあるため、カバンの中身は重たくなっている。教室のロッカーには、教科書等を置いて帰ることもでき、生徒には、家庭学習で必要な物を自分で判断して持ち帰るように指導している。生徒によっては、学校に置いておく物と持ち帰る物を判断し、カバンに出し入れすることを面倒くさがり、たくさんの物を入れたまま登下校している者もいる。